

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078400175
法人名	社会福祉法人 久英会
事業所名	若久園グループホーム
所在地	福岡県八女郡広川町大字新代1389-117 (電話) 0943-32-9060

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3－1－7		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】 (平成19年11月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17人, 非常勤 1人, 常勤換算 18人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建て、一部鉄筋コンクリート2階建て 造り
	2階建ての 1～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,500	円	その他の経費（月額）		円	
敷金	有（ 円） （無）					
保証金の有無 （入居一時金含む）	（有）（ 100,000 円） 無		有りの場合 償却の有無	（有） / 無		
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		900	円		

(4) 利用者の概要 (平成19年11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高良台リハビリテーション病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地帯に走る国道沿いに広大な敷地を有する母体法人施設があり、事業所はその奥まった一角にある。隣にゴルフ場があり、母体法人施設一周は、よい散歩コースとなっている。リビングを囲んだ居室には、トイレと洗面が設備されている。支援に当たっては、FIM方式を取り入れた支援計画が立てられ、理学療法士や作業療法士の指導により、リハビリが実施されている。また、お菓子作り・鯛の活き造りやうどん打ち等、専門家を招いての実演も行っている。利用者はこれらを取り入れたきめこまかな支援により、認知症の進行の維持改善がみられ、介護度の改善例も多々みられる。職員は母体法人の理念を大切にしながら、独自の理念の下、情報を共有して日々の支援にあたっており、暖かい眼差しが感じられる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、地域とのつきあいを積極的に行ったり、鍵をかけない工夫をする等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で勉強会をし、検討して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告し、委員から意見、要望、質問等をもらい、地域との関わりを強化する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	事業所は家族アンケートをとったり、家族来訪時に積極的に声かけを行い、意見や不満等の聴取に努めている。また、運営推進会議後に家族だけの交流の機会を設ける等し、サービスの向上に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事に参加している。回覧板を利用し、事業所行事に地域住民を呼びかけ、参加がある。近隣の学校とも様々な交流を図り、積極的に地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「利用者の自立と尊厳を守り、地域に求められるサービスを…」と地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念の唱和を行い、会議時等に理念に基づいたサービスの実践に向けて確認し、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事に参加している。回覧板を利用し、事業所行事に地域住民を呼びかけ、参加がある。近隣の学校とも様々な交流を図り、積極的に地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で勉強会を行い、検討して取り組んでいる。前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、地域とのつきあいを積極的に行ったり、鍵をかけない工夫をする等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告し、委員から意見、要望、質問等をもらい、地域との関わりを強化する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へ出向いて情報を得るように努め、事業所の行事に行政の訪問がある等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関して、入居時に本人・家族等へ説明している。全職員は外部または内部研修を受けて周知に努め、テキスト・報告書やパンフレット等がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、手紙や写真と併せて暮らしぶりや行事予定や職員の異動等を報告している。また、家族等の来訪時にも健康状態等を報告し、緊急時には電話で報告している。金銭管理については、月1回、領収書や記録のコピーを送付し、家族来訪時に確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所は家族アンケートをとったり、家族来訪時に積極的に声かけを行い、意見や不満等の聴取に努めている。また、運営推進会議後に家族だけの交流の機会を設ける等し、サービスの向上に努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努力しているが、やむを得ない異動等では、引継ぎの期間を十分にとり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除はしないようにしている。配置・昇進、教育訓練、定年・退職等においても、差別なく誰でも安心して働ける職場環境を目指している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員は、人権に関する内部及び外部研修を受講している。一部職員が外部研修を受講した際は、伝達研修を行い、他の職員の周知を図っている。また、朝礼時や会議時等、機会ある毎に勉強している。テキスト、研修記録、報告書やパンフレット等を整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員が日常的に学ぶことを推進し、外部研修受講や伝達研修等の機会をつくっている。また母体法人の内部研修に参加したり、グループホーム部会への参加等、職員を育てる取り組みをしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会に加入している。管理者及び職員は、勉強会に参加し、他の事業所との交流や連携を図って、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、見学や自宅訪問等を行っている。利用開始後は、利用者の状況により家族等に宿泊を依頼する等、本人が場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除等を共に行い、漬物漬け等、職員が知らないことを教えてもらう場面がある。畑仕事、裁縫・盆栽、手芸、書道等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、表情や動き等で思いを推し測ったり、また家族等関係者から情報を得るようにして、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員の気づきや意見、アイデアを反映しながら、個別具体的な計画を作成している。本人及び家族から介護計画を了承した署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、モニタリングとカンファレンスを行い、最低6ヶ月に1回、介護計画を見直している。また、利用者の状態変化や状況に応じて、随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、送迎等の支援は、本人や家族の状況に応じて柔軟に支援している。利用者が入院した際は、見舞いを行い、医療関係者及び家族等と連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望するかかりつけ医での受診を、支援している。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針があり、入居時に家族等へ説明している。利用者や家族等の意向を大切にしながら、勉強会を行う等し、本人、家族等、医療関係者、職員の全員で方針を共有している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は接遇マナーや個人情報保護法に関する研修を受講し、理解している。諸場面で、利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、買い物・散歩・小物作り・畑仕事、盆栽いじり等、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に準備や片付けを行っている。一部職員は同じテーブルで同じものを食べているが、誤嚥等の事故防止の観点から、利用者と一緒に食事は摂らず、見守りと介助をしている職員もいる。食事を楽しむ雰囲気作りに配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望に合わせ、毎日入浴を楽しめるように支援している。入浴拒否の人については、声かけ等を工夫して、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、正月・ひな祭り・盆供養・中秋の名月等の飾り付けや、畑仕事・裁縫・書道・漬物漬け・盆栽等、楽しみ事も含めて一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調に応じて、毎日の散歩を支援している。また、概ね週1回の花見等のドライブ、外食、週に数回の買い物等、希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。玄関にはセンサーを設置し、職員は利用者の外出傾向等を把握して、見守り等を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルがある。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練には地域住民の参加協力を得て、災害に備えて非常用食料や備品等の準備もしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の栄養摂取量の記録がある。一人ひとりの嗜好を把握して献立に取り入れ、月１回、管理栄養士によるアドバイス・チェックを受けている。毎日の水分摂取についても補給時間を日誌に記録し、把握はしているが、利用者一人ひとりの記録はしていない。	○	一人ひとりの水分摂取量についても、大まかに把握してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
（１）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは広くて明るく、活け花やクリスマスの飾りつけをする等、季節感を採り入れている。共用空間は、職員と利用者合作の壁画や手作りの作品を飾り、行事や外出時の写真を掲示する等、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、クローゼット・トイレ・洗面台や空調を設備している。利用者の馴染みのある整理箆・テーブル・家族写真等を持ち込み、本人が居心地よく安心して過ごせような工夫をしている。		

※ は、重点項目。